

韓国の子ども英語図書館

—ソウル特別市の英語のプログラムに関する調査—

Children's English Library in Korea: A Survey of English Language Programs in
Seoul Special City

カレイラ松崎順子

はじめに

隣国の韓国では1997年度に英語教育が小学校に導入されて以降、早期英語教育が過熱化し、それに伴い所得が多い家庭の児童は英語塾に通い、また、早期留学に行くことができるなど親の所得が子どもたちの学校以外での英語学習への参与、さらには英語力に影響を与えるなどの問題が生じてきた。ゆえに、韓国政府は所得による格差から生まれる英語力の格差をなくすために、様々な対策を行ってきた（カレイラ、2014）。それらの対策の一つとして子ども英語図書館があげられる。ここでは英語の図書を提供するだけでなく、キャンプや英語の講座などの体験活動を無料または廉価で提供している（カレイラ、2022）。

一方、日本でも子ども用の英語の図書を所蔵したり、英語の読み聞かせ活動を行ったりしている公立の図書館や個人が経営している英語図書館はあるが、韓国のような公立の子ども英語図書館は設立されていない。日本においても近年不景気が続き子どもの教育に十分に投資できない家庭が増え、教育格差ということが問題になりつつある（松岡、2021）。ゆえに、教育格差対策の一つとして、子ども英語図書館の設立というものを日本においても将来的に検討していくべきであろう。

よって、本研究では韓国の子ども英語図書館に着目し、いつ頃どのような地域に子ども英語図書館が設立されたのかを調べ、韓国における子ども英語図書館の概観を把握していく。さらに、英語のプログラムが充実している子ども英語図書館をソウル特別市から3館選び、実際にどのような英語のプログラムが行われているのかを明らかにしていく。

I. 韓国の英語教育における格差

韓国では、英語教育が国家政策の一つになっており、これは文民出身の金泳三大統領政権のもと、国家目標として「世界化政策」が掲げられたことに端を発する。さらに、1998年

のIMF（国際通貨基金）経済危機下で誕生した金大中大統領は、IMF体制を受け入れることによって経済の建て直しと国内市場の開放を行い、教育面では世界化に備えた英語教育の徹底化、国際社会に対応できる人材の育成、留学の自由化に重点をおいた教育政策を推進した。このように金泳三、金大中両政権の国家政策によって現代韓国社会では英語教育が重視され、最も力を入れている教育政策の一つとなっていたのである（田中、2008）。

特に、1995年韓国が「世界貿易機関」（WTO）に加盟したことをきっかけに留学ブームが起こった。そのような中、子どもに海外で英語を学ばせるために、妻子を海外に住ませ、父親は韓国に残って生計を支えるという「キログ・アッパ（雁のお父さん）」と呼ばれる父親が家族別居問題の象徴的存在として注目を集め、「キログ・アッパ」の孤独死や自殺など、つらい生活実態が明らかになり、早期留学に対する批判が高まった（小林、2009）。

II. 韓国における教育格差対策

ここでは韓国における教育格差とその対策について述べる。韓国では高まる私教育費を軽減するために様々な対策が行われてきた。最初に行われた対策は1968年と1973年に各々実施された中学校無試験進学制と高校平準化政策である。さらに、1980年には7.30教育改革措置により学院（日本の塾に相当する）や家庭教師などの私教育を全面的に禁止し、不法な私教育を取り締まったが、私教育禁止措置への反対意見と私教育を許容することへの要求が高まり、政府は私教育禁止措置を徐々に緩和していきながら、2000年には憲法裁判所が「学院の設立及び運営に関する法律」第3条および第22条第1項第1号に対する違憲判決を出し、私教育禁止措置は全面的に解除された（田中、2009）。その後も政府は私教育費を軽減するために様々な対策を行った。

そのような対策の一つが放課後学校である。放課後学校とは義務教育の補習授業というよりも、塾などで行う授業を学校内で安く受けられるようにしようという趣旨で導入されたもので、多様な教育機会提供というよりは私教育費軽減という社会経済的機能の目的がより強調されている。放課後学校の参加対象者は、希望する当該学校の生徒のみならず、他校生も参加でき、活動場所は学校以外に自治体などの外部機関の施設が活用されることもある。プログラムの受講料については、保護者の負担を最小限にできるような設定が求められており、低所得層などの児童に対しては月1人あたり30,000ウォンまでの支援がある。また、ソウル特別市においては、支援が出ない場合、プログラムの受講生の10%にあたる人員を低所得層の子どもに充てることができ、彼らは無料で参加することができる（田中、2012）。

ところで、このような放課後学校は私教育費軽減に大きな役目を果たしてきたが、朴槿恵大統領就任後、2014年2月18日に「公教育正常化促進および先行教育規制に関する特別法」別名「先行学習禁止法」が通過した後、約4年間の猶予期間を経て、2018年3月から

本格的に施行された。「先行学習禁止法」とは公教育正常化と教育の平準化を目指して制定されたものであり、主な内容としては、通常の編成外の学校教育課程の運営は違法であると見做され、これにより放課後学校での先行学習が出来なくなった（ジャン、2018；ジュ、2017）。

特に、英語の授業は小学3年生からはじまるため、放課後学校で小学1・2年生に英語を教えることは先行学習になり、小学1・2年生に対する英語の教材を使用した学習の禁止が議論され¹⁾、このような中、塾などに行けない児童のために、英語を幼少期より安価に学習できるようにと、韓国の図書館では多文化ないし英語の読書活動に関連した様々なサービスを強化しはじめた（ジャン、2018）。

III. 韓国における子ども英語図書館

韓国では2003年に市民団体の提案で始まった民間放送局が放送した『奇跡の図書館』という番組が大きな話題になり、放送は1年間で終了したものの、それ以降各地に子ども専門図書館が次々と設立された（曹、2007）。

さらに、国立中央図書館は2005年10月開館60周年を迎え、政策ビジョン「国立中央図書館2010」を公表した。この中で、公表当時の公共図書館数487館を2010年までに710館に増やすという公共図書館の支援策を示し、その一環として「小さな図書館」の設立の推進が発表された。なお、図書館法施行令別表（文化体育観光部、2016）によると「小さな図書館」とは、地域の住民が歩いて10分以内で利用できるような近い場所に、本だけでなく多様な読書・文化プログラムを享受できる小規模図書館のことであり、具体的には建物面積が33平方メートル以上で閲覧席が6席以上、さらに、図書館資料が1,000冊以上所有していることが基準となっている。

「小さな図書館」は文化観光部が2004年に宝くじ基金25億ウォンで25の「小さな図書館」づくりを行い、これを引き受けた国立中央図書館は2006年2月に「小さな図書館活性化推進計画」を策定した。4月には「小さな図書館」の設立を支援するため、「小さな図書館振興チーム」を発足し、主に住民自治センターなど遊休施設になっている小規模の公共施設を「小さな図書館」に改装し、全国に「小さな図書館」を設立した（曹、2007）。なお、その後上述したように早期英語教育が過熱化し、それに答えるように2009年より公共図書館と「小さな図書館」に子ども英語図書館が次々と設立されるようになった。

子ども英語図書館に関する研究は2009年以降いくつか行われており、たとえば、Chang（2011）は全国の公共の子ども図書館の英語読書プログラムの運営状況を調査した結果、全国の公共の子ども図書館のうち60%に相当する図書館が英語読書プログラムを運営しており、英語の読書プログラムの対象は主に7歳未満の幼児や小学校低学年で、最も多く運営されていたプログラムは、読み聞かせ活動であったと報告している。また、年齢別のプログラ

韓国の子ども英語図書館

ムや童話劇のような体験プログラムなど、様々な形態のプログラムが運営されているが、ほとんどの図書館において、英語の読書プログラムの目的、講師、内容、レベルなどが多様であり、適切な基準が設定されていないなどの問題を指摘している。また、子ども図書館のプログラムに参加している児童と保護者を対象に、英語の読書プログラムに対する質問紙調査を行い、その結果多くの保護者は子ども図書館の英語の読書プログラムを重要であると認めているが、英語の読書プログラムの満足度はあまり高くなく、さらに、多くの保護者が英語の読書プログラムの数をもっと増やし、プログラムを多様化させる必要があると思っていることを報告している。Lee (2015) は釜山2か所、ソウル6か所の子ども英語図書館について調査を行い、子ども英語図書館は公共機関が運営するものと非営利の図書館や個人が運営する図書館に分けることができ、子ども英語図書館は新都市・新市街地など比較的経済的に余裕のある地域に多かったと報告している。さらに、プログラムの運営は、英語指導が可能な司書、英語母語話者の教師、英語教育を専攻した韓国人教師など専門的な人材とボランティアで構成されるべきで、また、英語の図書だけでなく、DVD、オーディオ教材、さらに、ボードゲームなども置いておく必要があるであろうと述べている。さらに、Kwon, Chang & Jeon (2014) は国内外の英語関係の図書館の現状を調査し、子ども英語図書館を今後効率的に運営するためには、英語力およびテーマ別の書籍リストを作成すべきであると提案している。

また、学校の英語図書館に関する研究に関しては、たとえば、Chang, Lee & Kwon (2010) は中学校の英語の図書館の実態調査を行い、英語図書館を運営している学校は、学校のカリキュラムと連携しているというより、切り離して運営しているところが多かったと述べている。Byun (2013) は大学で運営する英語図書館に関する調査を行い、子どもたちを登録させた親は、英語図書館が英語の私教育の代替として廉価で便利なので登録しており、また、児童のみならず、保護者自身も英語図書館の施設と資料を利用していたと報告している。Hong & Min (2009) は学校における英語図書館の構築と活用に関する調査を行い、英語図書館は英語の書籍とともに様々な活動を経験できる施設やプログラムを提供し、通常の図書館とは別の空間に作られるべきであると示唆している。

その他、Ham & Kim (2010) は農村地域の英語教育の環境改善のための対策の一つとして、図書館の活用を以下のように提案している。既存の公共図書館の建物を改修したり、英語のみの空間に特化させたりすることにより、時間的・物理的に発生する経費を削減することができ、英語の書籍を揃え、プログラムの運営に集中することができる。よって、廃校や小規模の学校が多い農村地域はそれらを利用することにより、都市に劣らない英語教育の環境を整えることができ、さらに、公教育と連携した質の高い教育機会を農村地域住民に提供することで、地域住民の教育環境に対する不平等感を緩和させることができると述べている。また、宿泊をしながら英語のみの環境で英語を学ぶことができる英語村などと比べると、英

語図書館はより低予算で実現できると示唆している。

IV. 本研究の目的

日本でも教育格差が近年問題となっているが（松岡，2021），特に，小学校で2020年度に英語が教科化されたことから英語の教育格差が今後広がる可能性がある。ゆえに，日本へ示唆を与えるために本研究では先駆けて子ども英語図書館を設立している韓国の先例に着目し，韓国の子ども英語図書館の概観を調べることにした。すなわち，韓国の子ども英語図書館の現状と子ども英語図書館においてどのような英語のプログラムが行われているのかを明らかにすることが本研究の目的である。

V. 方法の手順

最初に，国家図書館統計システムを使用して，韓国全体の子ども英語図書館の現状を調べる。具体的には「国家図書館統計システム」²⁾上の「公共図書館統計調査」と「小さな図書館統計調査」のデータベース上で，それぞれ韓国語で英語と入力し，その結果検索された各図書館の情報を調べていく。なお，図書館法第2条第4号（文化体育観光部，2021）によると，韓国における公共図書館というのは，公衆の情報利用・文化活動・読書活動および生涯学習のために国家または，地方自治体が設立・運営する図書館（公立公共図書館）または，法人，団体および個人が設立・運営する図書館（私立公共図書館）であると定義されており，奉仕対象人口によって公共図書館としての施設の面積，閲覧席，および図書数の最低限のラインが図書館法施行令別表1（文化体育観光部，2016）によって定められている。

次に，ソウル特別市にある子ども英語図書館の中から，特に，文化プログラムを多く提供している3つの子ども英語図書館を選び，各図書館を訪ね直接入手した資料やホームページをもとにどのような英語のプログラムがどのような形態（費用・回数・対象・内容）で行われているのかを調べる。

VI. 結果

1. 韓国における英語図書館の現状

最初に「国家図書館統計システム」上の「公共図書館」のデータベース上において，韓国語で英語と入力し，図書館名に「英語」が含まれている公共図書館を検索した結果，11館抽出された（表1を参照）。最初に設立されたのは釜山広域市の2館であり，その後2012年度以降毎年新しく名称に「英語」が含まれる公共図書館が設立されている。

韓国の子ども英語図書館

表1 名称に「英語」が含まれる公共図書館として登録されている図書館名・地域・設立年度

地域	図書館名	設立年度
慶尚南道	密陽市立英語図書館	2014
慶尚南道	泗川市子ども英語図書館	2012
慶尚南道	梁山英語図書館	2014
慶尚北道	浦項市立子ども英語図書館	2014
釜山	釜山広域市立中央図書館別館釜山英語図書館	2009
釜山	影島子ども英語図書館	2009
ソウル	江西英語図書館	2012
ソウル	松坡子ども英語小さい図書館	2015
ソウル	陽川区英語特特性化図書館	2016
全羅南道	木浦英語図書館	2017
全羅北道	完州郡屯山英語図書館	2013

表2 名称に「英語」が含まれる公共図書館の会員登録者数

図書館名	会員登録者数		
	子ども	青少年	成人
密陽市立英語図書館	132	15	430
泗川市子ども英語図書館	2,297	0	23
梁山英語図書館	354	55	665
浦項市立子ども英語図書館	340	22	540
釜山広域市立中央図書館別館釜山英語図書館	15,100	15,165	31,565
影島子ども英語図書館	395	51	807
江西英語図書館	1,182	647	3,599
松坡子ども英語小さい図書館	1,614	786	2,098
陽川区英語特特性化図書館	1,264	2,004	7,970
木浦英語図書館	120	68	290
完州郡屯山英語図書館	1,186	741	2,640

表2は表1で抽出された各図書館の会員登録者数である。表2から「釜山広域市立中央図書館別館釜山英語図書館」の会員登録数が圧倒的に多いのがわかる。

表3は名称に「英語」が含まれる公共図書館で2017年度に行われた文化関連プログラム数（読書関連のプログラムも含み）と参加者数である。プログラムの実施回数は「陽川区英語特特性化図書館」が最も多いが、参加者数は「泗川市子ども英語図書館」が最も多い。

次に「小さな図書館」のデータベースで、名称に「英語」が含まれる公共図書館を調べた結果、8館抽出された（表4を参照）。2009年度に「江陵英語小さな図書館」と「麻浦子ども英語図書館」が設立されて以降、2015年度までほぼ毎年名称に「英語」が含まれる「小

表3 名称に「英語」が含まれる公共図書館で行われている文化関連プログラム数と参加者数

図書館名	講座	
	実施回数	参加者数
密陽市立英語図書館	98	11,226
泗川市子ども英語図書館	35	29,896
梁山英語図書館	86	1,325
浦項市立子ども英語図書館	35	7,119
釜山広域市立中央図書館別館釜山英語図書館	60	21,918
影島子ども英語図書館	336	8,885
江西英語図書館	12	7,346
松坡子ども英語小さい図書館	24	17,206
陽川区英語特性化図書館	2,109	11,978
木浦英語図書館	52	6,420
完州郡屯山英語図書館	49	6,959

表4 名称に「英語」が含まれる公立の「小さな図書館」として登録されている図書館名・地域・設立年度

地域	図書館名	設立年度
江原道	江陵英語小さな図書館	2009
大邱広域市	大邱広域市中区英語図書館	2013
大田広域市	儒城区子ども英語村図書館	2015
ソウル特別市	ドリームランド子ども英語図書館	2010
ソウル特別市	麻浦子ども英語図書館	2009
ソウル特別市	新道林子ども英語小さい図書館	2011
ソウル特別市	恩平子ども英語図書館	2010
全羅南道	夢見る英語専門小さい図書館	2012

小さな図書館」が新たに設立されている。地方の田舎というよりも、8館中4館がソウル特別市に設立されており、その他大邱広域市や大田広域市など比較的大きな都市に多い。

表5は名称に「英語」が含まれる公立の「小さな図書館」として登録されている図書館の年間総利用者数、1日平均利用者数、および会員登録者数である。ソウル特別市にある図書館が年間総利用者数、1日平均利用者数、および会員登録者数が多いのがわかる。

表6は名称に「英語」が含まれる公立の「小さな図書館」として登録されている図書館の文化プログラムの実施回数と参加者数（2016年度）である。表6からも明らかなように「麻浦子ども英語図書館」の実施回数と参加者数が最も多い。

さらに、名称に「英語」が含まれる私立の「小さな図書館」は全国で52館あり（表7を

韓国の子ども英語図書館

表 5 名称に「英語」が含まれる公立の「小さな図書館」として登録されている図書館の年間総利用者数、1日平均利用者数、および会員登録者数

図書館名	年間総利用者数	1日平均利用者数	会員登録者数
江陵英語小さい図書館	26,196	72	1,538
大邱広域市中区英語図書館	24,500	70	4,984
儒城区子供英語村図書館	20,880	80	1,477
ドリームランド子ども英語図書館	15,650	50	1,518
麻浦子ども英語図書館	32,552	104	4,467
新道林子ども英語小さい図書館	39,150	150	1,636
恩平子ども英語図書館	20,790	70	5,877
夢見る英語専門小さい図書館	8,874	34	0

表 6 名称に「英語」が含まれる公立の「小さな図書館」として登録されている図書館の文化プログラムの実施回数と参加者数

図書館名	実施回数	参加者数
江陵英語小さい図書館	40	400
大邱広域市中区英語図書館	54	847
儒城区子供英語村図書館	269	2,882
ドリームランド子ども英語図書館	971	6,499
麻浦子ども英語図書館	990	14,167
新道林子ども英語小さい図書館	98	1,436
恩平子ども英語図書館	378	1,494
夢見る英語専門小さい図書館	453	7,428

表 7 名称に「英語」が含まれる私立の「小さな図書館」として登録されている地域別の図書館数

地域	私立の英語図書館の数
江原道	3
京畿道	11
慶尚南道	4
慶尚北道	3
光州広域市	1
大邱広域市	5
大田広域市	2
釜山広域市	1
ソウル特別市	13
仁川広域市	3
全羅南道	1
忠清南道	3
忠清北道	2

参照), 出版社が経営しているものや英語塾が運営しているものなど様々な形態がある。表7から明らかなように、名称に「英語」が含まれる公立の「小さな図書館」がない地域、たとえば、忠清南道や忠清北道の地域にも名称に「英語」が含まれる私立の「小さな図書館」がある。

2. ソウル特別市における子ども英語図書館の現状

上記の結果から、ソウル特別市には名称に「英語」が含まれる公共図書館が3館、名称に「英語」が含まれる公立の「小さな図書館」が4館あることがわかった。この中で会員登録者数が多く、多くの文化プログラムを提供している「陽川区英語特性化図書館」と「松坡子ども英語小さい図書館」、および名称に「英語」が含まれる公立の「小さな図書館」の中で最も多くの文化プログラムを提供している「麻浦子ども英語図書館」においてどのような英語のプログラムが行われているのかについて訪問した際に入手した資料とホームページの情報に基づいて詳述していく。

(1) 「陽川区英語特性化図書館」

「陽川区英語特性化図書館」³⁾は既存の子ども図書館と英語体験センターを改修し、2016年4月19日に韓国・ソウル特別市陽川区のヘヌリタウン7階に英語専門図書館を開館した。約5万冊の図書があり、そのうち3万5千冊が英語で書かれた書籍(簡単な英語で書かれた絵本、英語で書かれた小説、英語で書かれた様々なジャンルの書籍など)を一人当たり3冊10日間借りることができる。

書籍以外にも子ども英語資料室、語学室(2部屋)、プログラム室(2部屋)、読み聞かせルームがあり、これらを利用して様々な英語のプログラムを提供している。以下は陽川区英語特性化図書館が提供している児童向けのプログラムである。「陽川区英語特性化図書館」は以下のすべてのプログラムを無料で提供している。なお、「陽川区英語特性化図書館」は児童だけでなく成人も受け入れており、以下のプログラムの他に、成人向けのプログラムもある。

幼児のためのクラス

English Playground 5歳~6歳⁴⁾対象(3クラス)

- ・楽しい歌と様々なActivityでアルファベットと基礎的な英語を自然に習得できる。

Jump Up English 7歳~8歳対象(1クラス)

- ・生活の中で身近なテーマを選び、楽しいゲーム、歌で英語を学ぶ。

小学生のためのクラス

Movie Kids1 小学1年生⁵⁾~3年生対象(2クラス)

- ・映画の中の様々な表現を聞いて理解し、短い劇でそれらを活用した会話の練習を行う。

韓国の子ども英語図書館

Phonics to Read 小学1年生～3年生対象 (2クラス)

- ・スマート言語ラボのタッチテーブルを利用して、英語のゲームやクイズなどにより、英語表現を身につける。

ABC Fun Phonics 小学1年生～3年生対象 (2クラス)

- ・スマート言語ラボのタッチテーブルを利用した授業で、チャンツとゲームで基礎的なフォニックスを身につける。

Science Why 小学1年生～3年生対象 (1クラス)

- ・面白い物語を読んで関連する科学的実験やプロジェクトなどの活動を通じて、英語を身につける。

English Theater 1 小学1年生～3年生対象 (1クラス)

- ・楽しい物語を読んで遊びと対話により、英語の演劇を行う。

English Theater 2 (1クラス) 小学3年生～6年生対象

- ・楽しい物語を読んで遊びと対話により、英語の演劇を行う。

Speak Up 小学4年生～6年生対象 (1クラス)

- ・トピックに関連する表現、内容を身につけ、自分の意見を友達と自由にかわし、発表する。

Movie Kids2 小学4年生～6年生対象 (1クラス)

- ・映画の中の様々な表現を聞いて理解し、短い劇でそれらを活用して会話の練習を行う。

The Times Quiz 中高生 (1クラス)

- ・Time for Kidsの記事を一緒に読んでトピックについて自分の考えを書いて発表する。毎回の授業で単語テストが行われる。

その他、Kids Cinemaでは毎日英語の子ども向けの映画を上映しており、ハロウィンのイベントのHappy Halloweenにおいては、カップケーキ作り・英語での読み聞かせ・読書クイズなどを行っている。さらに、近隣の学生が未就学児や小学生に英語資料室が所蔵している英語の原書を読んであげるStorytelling with Studentsという講座を無料で提供している。

また、夏休みには小学生全学年を対象に深夜図書館という図書館に1泊泊まるキャンプを提供しており、その他以下のような講座も提供している。

- ・英語 Story Telling (2クラス・4歳～5歳対象)
- ・ABCで遊ぼう (2クラス：5歳～7歳対象)
- ・Amy先生のクッキング英語 (1クラス・小学1年生～3年生対象)
- ・英語母語話者の先生のReading Club (1クラス・小学3年生～4年生対象)
- ・漫画と英語 (1クラス・小学生全学年対象)

(2) 「松坡子ども英語小さい図書館」

松坡区にある「松坡子ども英語小さい図書館」⁶⁾は屋外テラス・プログラム室・Reading Zone・Little Kid Zone・Multimedia Zone・DVD Zoneに分かれている。所蔵図書(2015年)は約16,000冊であり、その他、刊行物11冊とDVDを742本所有している。貸出期間は14日で貸出冊数は3冊である。予約者がいない時に延長可能であり、借りた日から1回(7日)に限り、直接図書館において、またはホームページ上で延長ができる。

以下が「松坡子ども英語小さい図書館」が提供しているプログラムである。

未就学児対象のプログラム

- ・ABC Storytelling (5歳対象：2クラス：月15,000ウォン)
- ・Phonics K (6歳対象：2クラス：月50,000ウォン：週2回)
- ・Storytelling with Hands-on (6歳～7歳対象：5クラス：25,000ウォン)

小学生対象のプログラム

- ・GRC Starter (フォニックスのクラス：7歳～9歳：2クラス：月50,000ウォン：週2回)
- ・Phonics Readers (7歳～9歳対象：1クラス：月25,000ウォン)
- ・Story Journal (7歳～9歳対象：1クラス：月25,000ウォン)

また、以下のプログラムでは英語の読書能力診断を行い、クラス分けを行っている。

Book Club (7歳～12歳対象：4クラス：レベルテストが必要：月25,000ウォン)

- ・Guided Reading Care (水準別読書学習：5クラス：レベルテストが必要：6回で30,000ウォン)

夏休み期間中は3週間のSummer Reading Campを行っており、以下のような講座を提供している、

Reading Club (60,000ウォン：6回)

- ・主題別に設定した知識、科学・ノンフィクション分野の本を原書で読み、討論する過程を通して語彙や背景知識を増やしていく講座で、Starter小学1年生～2年生、Intermediate小学3年生～4年生、Advanced小学5年生～6年生の3クラスに分かれている。

Journal Writing (40,000ウォン：6回)

- ・Reading Clubで読んだ本の知識をもとに表現する能力を高める英作文の講座。Starter小学1年生～2年生、Intermediate小学3年生～4年生、Advanced小学5年生～6年生の3クラスに分かれている。

Sight Word Readers (40,000ウォン：6回)

- ・必須英単語を本で効果的に学ぶ。

Game Day (無料3回)

- ・楽しいゲームを通して語彙力、ライティング、スピーキング能力を高める。

韓国の子ども英語図書館

Event/Hands-on (参加料無料：材料費として 15,000 ウォン：3 回)

- ・ English & Cooking 7 歳～小学生全学年対象：英語で料理を体験する。
- ・ English & Science 7 歳～小学生全学年対象：英語の絵本で科学を学ぶ。
- ・ English & Math (A) 7 歳～小学 2 年生対象：英語の絵本で数学を学ぶ。
- ・ English & Math (B) 小学 3 年生～6 年生対象：英語の絵本で数学を学ぶ。

その他「松坡子ども英語小さい図書館」では保護者のための Mom's Book Club を提供している。

(3) 「麻浦子ども英語図書館」

「麻浦子ども英語図書館」⁷⁾ の所蔵冊数は約 18,000 冊で貸出冊数 4 冊，貸出日数 2 週間で年会費 3,000 ウォンである。また，英語の文化プログラム講座は，1 レッスン 50 分間で 1 か月 30,000 ウォンである。以下は「麻浦子ども英語図書館」が提供している講座である。

幼児のためのクラス

Toddler's Class 36 か月～5 歳対象 (1 クラス)

- ・ 母親と一緒に英語の絵本を読みながら様々な活動を行う。

Reading with Art & Music Fun 6～7 歳対象 (1 クラス)

- ・ 英語の童話を読んで英語と関連した多様な美術活動や料理活動などを行い，英語に対する興味を引き出し，英語の本に楽しく接することができるようにする。

Books for Preschoolers 6～7 歳対象 (1 クラス)

- ・ 英語の童話の本を通して英語の音声教育と文字教育のみならず思考力を高める。

小学生のためのクラス

小学生のための Phonics Fun 小学 1・2 年生対象 (2 クラス)

- ・ 英語童話を読んで，童話と関連した多様な美術活動，音楽活動，および料理など楽しく多様な遊びを通して，英語に対する興味を育てながら，英語の本に楽しく接することができる。

Guided Reading 小学 1・2 年生対象 (2 クラス)

- ・ 反復したパターンを通して英語の文章に自然に接することができるように，音読する。

低学年のための Picture Book Club 小学 1・2 年生対象 (1 クラス)

- ・ 低学年の児童が負担なく，英語の童話を楽しむことができる読み聞かせの講座。英語の童話を中心に先生が英語の読み聞かせや楽しい活動を行う。

Storytelling 1：低学年 Storyteller 課程 1 小学 1 年生～3 年生対象 (1 クラス)

Storytelling 2：低学年 Storyteller 課程 2 小学 2 年生～3 年生対象 (1 クラス)

- ・ 毎月決められた本を声に出して読むだけでなく，体も動かしながら，自分の話として話せるようになる講座で，正確な発音や自然な音韻が身につくように学習し，話の内容を自分

の言葉で表現できるように、ゲームを行ったり、絵を描いたり、工作を行う。

Storytelling 3: 高学年 Storyteller 課程 小学3年生～5年生対象 (1クラス)

- ・毎月決められた本を声に出して読むだけでなく、体も動かしながら、自分の話として話せるようになる講座で、正確な発音や自然な音韻が身につくように学習し、話の内容を自分の言葉で表現できるように登場人物やメッセージについて深く討論を行い、グループで読み聞かせ活動やオーディオ資料を作る活動を行う。

Reading Workshop 小学1年生～4年生対象 (1クラス)

- ・主人公や背景など話の重要な要素を理解して、ワークシートを通して簡単に英語を書く練習を行う。

DRAMA CLASS 小学2～4年生対象 (1クラス)

- ・ドラマ用に作成された本の内容を理解して、動作を行いながら、感情をこめて英語を読む練習を行う。

Independent Reader 小学2年生～5年生対象 (2クラス)

- ・自分に親しみのあるキャラクターが登場する本を読んで、本の内容を理解し、本を通して討論の準備を行う。

Non-fiction 2: Non-fiction Reading 小学3年生～6年生対象 (1クラス)

- ・ノンフィクションを通して文の構成と文章の正確性を高め、専門的な語彙と知識を習得し、さらに、歴史、自然科学の分野の専門知識を得ることができる。

Kid's Book Club1 創意的英語読書入門 小学3年生～6年生対象 (1クラス)

- ・高学年のための絵本24巻を中心に、物語を理解する、考えを共有する、自分の考えを整理して書くという活動を併行して行う。

Kid's Book Club2 Easy Chapter Book 小学3年生～6年生対象 (2クラス)

- ・Chapter Bookを読む前に、有名なシリーズの本を読むことを通して読書量を増やし、本から抜粋した主題と関連したライティングを併行して行う。

Kid's Book Club3: Newberry 受賞作家クラス 小学4年生～6年生対象 (2クラス)

- ・著名な児童文学賞を受賞した作家たちの作品をもとに英語の本を本格的に文学として理解し、美しい表現と象徴の意味、作家の特徴などを理解する。

Writing 2: Kid's Writing Club 小学4年生～6年生対象 (1クラス)

- ・ジャンル別に読み、その特徴にあったライティングを行う。手紙や広告、児童詩、ニュース記事など多様な文を書く。

Non-fiction 3: Research and Debating 小学5年生～6年生対象 (1クラス)

- ・Time for KidのWorld Report Editionを読みながら、主題と関連した調査と討論を行い、論理的思考を高める。

Kid's Book Club 4: Chapter Book 小学5年生～6年生対象 (1クラス)

韓国の子ども英語図書館

- ・ Andrew Clements, Judy Blume など作家別に Chapter Book を読み、さらに、作家別の特徴や本の主題と関連したプレゼンテーションを行う。

子ども研究員および研究員セミナー課程 小学6年生対象 (2クラス)

- ・ 深化プログラムとして物語の分析や作家の研究など読書後の活動とプレゼンテーションを行う。

その他夏休みには「夏休み読書キャンプ」を行っており、1日2時間で5日間の Story Listening, Dictation, Writing, Dramatic Reading, Reciting, Storytelling Presentation のクラスを提供している。

VII. 考察

ここでは上記の結果に関する考察を行っていく。

第一に、本研究では韓国の子ども英語図書館の全体像を理解するため、「国家図書館統計システム」を利用して「公共図書館統計調査」と「小さな図書館統計調査」のデータベース上で、それぞれ韓国語で英語と入力し、その結果検索された各図書館の情報を調べた。その結果、英語図書館は各道または市に比較的万弁なく設立されていたが、忠清南道や忠清北道には、私立の英語図書館しかなく、公立の英語図書館は設立されてないことがわかった。これらの地域は、ソウル特別市などの大都市と比べて、児童・学生数が少ないため、設立しても利用者が少ないためであろうと思われるが、上述したように、地域における教育格差が大きいということを考慮すると、このような地域であればこそ、公立の子ども英語図書館の果たす役割が大きいのではないかとと思われる。

第二に、調査を行った3つの子ども英語図書館のいずれも英語の図書の貸出を行い、英語のプログラムを提供していた。どの講座も受講料は無料または1か月日本円にすると週1回2,000円～週2回5,000円程度で通常の英語学校よりも安い。また、それぞれの図書館が独自のカリキュラムで様々な講座を提供していた。たとえば、「陽川区英語特性化図書館」は英語の読み聞かせだけでなく、ゲームや歌、さらに、映画やスマート言語ラボのタッチテーブルなどメディアを積極的に利用した講座を多く提供しているが、「松坡区にある松坡子ども英語小さい図書館」と「麻浦子ども英語図書館」は図書館である特徴を生かした講座が多く、読み聞かせや英語の図書を利用した講座が多い。

また、夏休みにはどの子ども英語図書館でも英語の講座を提供しており、泊りがけで行うキャンプや料理作りを英語で体験する講座など楽しい講座が多く、さらに、英語で他教科を学ぶという CLIL (Content and Language Integrated Learning) を取り入れた講座もあった。

また、高学年の講座になるとかなりレベルが高くなり、たとえば、「麻浦子ども英語図書

館」の Non-fiction 3: Research and Debating では、「Time for Kid の World Report Edition を読みながら、主題と関連した調査と討論を行い、論理的思考を高める」とあるように、日本の大学の授業で行うようなレベルの講座を提供している。これらのことから子ども英語図書館を効果的に利用するなら、英語塾に行かなくても、かなりの英語力をつけることができるであろうということは容易に予想できる。

ところで、韓国の英語村は、上述したような早期留学の過熱を緩和させるため、また、経済的理由で海外に留学できない家庭の子どもたちのために、韓国国内で留学と同じような状況を作り出し、廉価に疑似留学が体験できる機会を与えることを目的として設立され、韓国各地に建設された。しかし、これらの英語村の多くは設置の初期費用が高く人件費が高いが、受講料が安いので、財政赤字になっている（樋口・木村，2010）。一方、英語村と比較して子ども英語図書館はより低予算で実現できる（Ham & Kim, 2010）。英語村では参加したときだけは英語漬けの環境に浸ることができるが、参加後同様の環境を継続して提供することは難しい。しかし、子ども英語図書館は、英語の絵本・書籍や英語のプログラムなどを継続的に提供することができ、さらに、英語の絵本や本を自宅で読むことができるなど、英語と接する機会が不足する EFL (English as a Foreign Language) 環境の児童にとって、子ども英語図書館は持続的な英語の入力手段として英語村より効果的であろう。

最後に、日本において韓国のような子ども英語図書館をすぐに設立するのは難しいが、廃校になっている学校や既存の公共の図書館の建物を改装し、英語の書籍を揃え、英語のプログラムを提供することによって、英語のみの空間を作ることが可能である（Ham & Kim, 2010）。特に、「陽川区英語特性化図書館」では近隣の学生を活用して、無料の英語の読み聞かせプログラムを行っていたが、日本においても近隣の大学と協力していくならすぐにでもこのようなプログラムは実現できるであろう。

おわりに

日本の図書館は英語の絵本や本を所蔵しており、月1回程度の英語の読み聞かせ活動などを行っている図書館もあるが、韓国のように児童のための英語専門の図書館というのはまだ設立されていない。しかし、日本でも教育格差が社会問題になりつつある（松岡，2021）。よって、日本は韓国のような子ども英語図書館をすぐに設立することは難しいが、たとえば、図書館を改装してその一部を英語図書館にしたり、廃校になった学校を英語図書館として活用したりすることはできるであろう。また、近隣の大学生や英語が堪能な成人を活用して英語の読み聞かせ活動を夏休みの期間だけ行うなど廉価な英語のプログラムを図書館で定期的に提供することは日本でも十分可能である。

最後に、本研究の限界点と今後の課題を述べていく。第一に、本研究ではソウル特別市の

韓国の子ども英語図書館

3つの英語図書館においてどのようなプログラムが行われているのかについての調査を行ったが、教育格差・私教育費削減における子ども英語図書館の果たす役割を考えるならば、地方の子ども英語図書館の現状を調べるべきであろう。第二に、今回は入手した資料とホームページ上の情報をもとに、英語のプログラムを費用・回数・対象・内容の観点から調べたが、調査対象の図書館は3館のみであるため、より一般化させるためには調査対象を増やす必要がある。最後に、図書館担当者、英語のプログラムの講師、および受講者に対するインタビューや英語のプログラムの観察などを行い、より現場の様子を明らかにすることが今後の課題としてあげられる。

附記 本研究はJSPS 科研費 JP20K00845 および日本図書館情報学会（平成28年度）の助成を受けたものである。

注

- 1) 2019年3月26日付で公教育正常化促進および先行教育規制に関する特別法（略称：公教育正常化法）が改正され、小学1・2年生に対する英語の放課後学校は継続されることになった（第16の3項）。
- 2) 国家図書館統計システム（参照2018-08-15）<https://www.libsta.go.kr/>
- 3) 陽川区英語特性化図書館 <http://www.yangcheon.go.kr/lib/libeng/main.do>（参照2020-09-10）
- 4) 韓国では「数え年」を採用しており、生まれた年に1歳になり、翌年1月1日から2歳になる。よって、韓国における6歳児は、日本の4歳児から5歳児に該当する。
- 5) 韓国の小学校は8歳（数え年）で入学する。なお、日本の年齢で満6歳である。
- 6) 松坡子ども英語小さい図書館 <http://www.splib.or.kr/spelib/>（参照2021-08-15）
- 7) 麻浦子ども英語図書館 <http://elc.mapo.go.kr>（参照2021-08-15）

引用文献

- カレイラ松崎順子 2022年「韓国での英語の教育格差対策」Independently published.
- 小林和美 2009年「『キログ・アッパ』になった韓国の父親たち—『早期留学』についてのインタビュー調査から—」『大阪教育大学紀要 第Ⅱ部門：社会科学・生活科学』vol. 57: 1-18.
- ジャン・ウソン 2018年4月16日掲載放課後英語授業禁止「中区保護者心配ない」図書館子供英語読書プログラム人気 2018年4月16日掲載『news1』<http://news1.kr/articles/?3291481>（参照2018-08-15）
- ジュ・フィヨン 2017年12月2日初等1・2年生放課後英語教室禁止—保護者『高い塾に入れなければならないのか』反発」『朝鮮日報』http://news.chosun.com/site/data/html_dir/2017/12/02/2017120200196.html（参照2018-08-15）
- 曹在順 2007年「韓国国立中央図書館の現状—図書館 情報化推進策と公共図書館振興策を中心に」『情報の科学と技術』vol. 57, no. 1: 9-14.
- 田中光晴 2008年「韓国における初等教育改革への取り組み：『世界化』政策の現状と展望」『飛梅

- 論集：九州大学大学院教育学コース院生論文集』vol. 8: 83-98.
- 田中光晴 2009年「韓国の学院法における『私教育』の位置づけ」『国際教育文化研究』vol. 9: 95-112.
- 田中光晴 2012年「放課後学校」, カレイラ松崎順子編『韓国の英語教育とEBSeの果たす役割』ブイーツソリューション.
- 樋口謙一郎, 木村隆 2010年「韓国の『英語村』—現状と展望—」『中部地区英語教育学会紀要』vol. 39: 135-140.
- 文化体育観光部 2016年『図書館政策企画団 図書館法施行令別表1』(改正 2016. 7. 26)
- 文化体育観光部 2021年『図書館政策企画団 図書館法第2条第4号』
- 松岡亮二 2021年『教育論の新常識—格差・学力・政策・未来』中央公論新社
- Byun, J. 2013. "A survey of parents' recognition of a university English library for children," *The Journal of English Language and Literature*, Vol. 18, No. 1: 235-260. (原文は韓国語)
- Chang, K; Lee, B; Kwon, H. 2010. "A study on the school English library. English," *Language & Literature Teaching*, Vol. 16, No. 3: 317-337. (原文は韓国語)
- Chang, Y. 2011. "A research for administration strategies of English reading programs at public children's libraries" *Journal of the Korean Library and Information Science Society*, Vol. 45, No. 1: 395-415. (原文は韓国語)
- Ham, J; Kim, J. 2010 "A study on application of English library to improve for English education environment in rural area," *Journal of Agricultural Extension & Community Development*, Vol. 17, No. 2, 2010: 261-277. (原文は韓国語)
- Hong, Y; Min, C. 2009 "A survey for the effective design and use of the English library for the elementary school English program," *Korean Journal of Teacher Education*, Vol. 25, No. 2: 52-72. (原文は韓国語)
- Kwon, H; Chang, K; Jeon, Y. 2014. "Programs supporting students' English literacy development in collaboration with public libraries: A development of an English reading program," *The Korea Contents Association Thesis Journal*, Vol. 14, No. 7: 541-549. (原文は韓国語)
- Lee, M. 2015. "A study to the public English library operations and services in South Korea," *Digital Library*, Vol. 77: 3-20. (原文は韓国語)